

## 一般検査室における高度腎障害の発見が早期診断・治療に繋がった1症例

◎渡辺 智昭<sup>1)</sup>、香川 綾夏<sup>1)</sup>、相原 苑果<sup>1)</sup>、中川 莉沙<sup>1)</sup>、篠原 由佳<sup>1)</sup>  
済生会 松山病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当一般検査室は、腎炎などを早期発見出来るよう Cre などの腎機能データを確認している。今回、一般検査室における高度腎障害の発見が早期診断・治療に繋がった1症例を報告する。

【症例】30代女性、BT37.0℃、HR104bpm、BP228/161mmHg、SpO<sub>2</sub>98%。

第1病日、仰臥位で呼吸苦と嘔吐あり。第8病日他院を受診した。当日当院に紹介受診の予定であったが、呼吸苦が増悪したため救急搬送された。

一般検査室で Cre のパニック値 (7.01mg/dL) を発見した。その他生化学データは、AST 64 IU/L、ALT 27 IU/L、LD 1272 IU/L、T-BiL 1.70mg/dL、D-BiL 0.42 mg/dL、CRP 0.15 mg/dL であり、高度の腎障害と溶血所見を認めた。血液検査データは WBC 10,450/μL、Hb 9.8 g/dL、PLT 8.6 万/μL であり、貧血と血小板減少を認めた。

上記より TMA などを疑い、血液像を鏡検したところ破碎赤血球が 2.4%出現していた。これら所見からさらに TMA の可能性が高まった。一般検査室から主治医に

TMA などが疑われることを報告し、当日腎臓内科のある専門病院に転院することとなった。転院先より、患者は悪性高血圧による二次性 TMA と診断、治療経過は良好、退院されたとの報告があった。

【考察】一般検査室がいち早く腎障害を発見し、患者背景や検査所見より疾患を推測出来たことが早期診断・治療に繋がったと思われた。

【まとめ】一般検査室において他部門の検査データを確認する重要性を再認識した。

連絡先：(089) 951-6111